（所属）

（学籍番号）　（名前）

初等社会科指導法（第1・2ターム　木曜日2限）

担当教員：小貫 篤 先生

2022年8月4日

**初等社会科指導法 レポート課題**

1. 小学校社会科の理念および小学校社会科で大切にされている問題解決学習について、

具体例を挙げて500字程度で論ぜよ。

問題解決学習について、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』によると、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力の一つに、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度を挙げており、そうした学習活動を充実させるための学習過程の例として、課題把握、課題追求、課題解決の三つが挙げられている。また主体的な学びについても、児童生徒が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが大切だとされている。

心身ともに発達段階の途中にある児童生徒にとっては、問題解決学習の導入の教材として、日常的に関わりのある身近な事例を取り上げることが有効である。例えば法学習における交渉教育では「おやつの取り合い」を、また法教育では「席取り」など、自分たちに関係する話題を取り上げ、一人一人が他人事ではなく自分事として受け止め、当事者の一人として問題解決に取り組むことができるよう、児童の実態に沿った実例を選ぶことが大切である。

現行学習指導要領では「①知識及び技能」、「②思考力、判断力、表現力等」、「③学びに向かう力、人間性等」の三つを養わなければならないが、工夫によっては問題解決学習の過程において、①②③の全てを培うことができる。

1. 授業で紹介した「法教育」「交渉教育」「社会参加学習」「国土学習」

「産業学習」「歴史学習」「政治学習」から一つ選び、

自分が授業者であればどのような教材で授業をつくり、

どのように評価するか1,000字程度で論ぜよ。

私は「社会参加学習」に関連して、埼玉大学とその周辺駅とを結んでいるバスの現状と課題を題材に、埼玉大学教育学部附属小学校の児童を対象として授業を行う。本学習は、題材及び前提知識の提示、課題把握、課題追求、課題解決、解決案の提示・参加の5段階を経て行われる。教材及び授業の概略、流れと評価については以下の通りである。

本授業では、北浦和駅西口から埼玉大学までの区間及び南与野駅西口から埼玉大学までの区間を結んでいる国際興業バス・西武バス、また志木駅東口から埼玉大学までの区間及び北朝霞駅から埼玉大学までの区間を結んでいる国際興業バス、ないしは浦和駅西口から埼大裏までの区間を結んでいる国際興業バスを題材として取り上げ、公共交通機関として現在果たしている機能と問題点について考えることを通じて、社会生活の一部についての理解と、それらを取り巻く問題を改善しようとする態度や能力を養うことを目指す。

本題材を選んだ理由については、埼玉大学附属の教育研究機関でもあるということで、研究授業等をきっかけとして利用する機会があると思われるからである。児童にとって身近な題材を取り上げることで、彼らは主体的に学習に取り組むことができる。

本題材において考えられる問題としては、バスが非常に混雑していることや、バスが極端に遅延すること、また西側に関してはバスの本数が少ないことなどが挙げられるが、今回は混雑と遅延を問題として取り上げたい。

本単元の指導計画については、導入部で「公共交通機関」という概念を提示し、それらが果たしている役割について教示を行う。公共交通機関にも様々な種類があるが、中でも街中を走っている「バス」という存在に目を向け、授業者が実際に現地で撮影した写真資料や映像資料等を用いながら、先述の区間のバスを提起することで、児童が具体的に想像することができるようにする。展開部ではバスが取り巻く問題に目を向け、ラッシュ時や雨天時に生じる重大な渋滞に伴う遅延や混雑などの問題を提起し、調べ学習へと繋げる。この際、文献やICT端末を用いて情報を収集する姿、また実地調査等に取り組む姿を見て、主体的に学習に取り組む態度として評価を行う。そして終末部には、課題を解決するためのソリューションを全体で共有・発表し、児童たちに特に優れていると思うソリューションを投票させ、その後は国際興業株式会社及び株式会社西武ホールディングスに改善案を送付する。これにより本単元の目標が目に見える形で明らかにされるため、児童はより意欲を持って活動に取り組むことができる。発表時には知識・技能として情報の収集の方法とその整合性を、また思考・判断・表現としては発表時の様子を、それぞれ評価する。